

2015年度通訳案内士試験  
＜合格必勝セミナー(2.0)＞資料  
(2015年5月10日)

ハロー通訳アカデミー  
植山源一郎

---

＜国策として80%の合格率を目指す！＞

---

●事実関係の確認

2014年度第2次口述試験の当日、昭和女子大におけるJNTOの担当者の発言の要諦は、下記の5項目です。

- (1)合格率を80%になるように採点して欲しい。
- (2)特に、合格不合格ギリギリの受験者には、合格判定を与えて欲しい。
- (3)2020年の東京オリンピックを控えて、これ(合格率を80%にして合格者を多数出すこと=大手旅行会社を大儲けさせること)は、国策です。
- (4)私たち(JNTO)は、上(観光庁)からの指示に従わなければなりませんので、ご理解のほどよろしく願いいたします。
- (5)このことについては、一切、外部に口外無用にてお願いします。

●観光庁からの指示は明白

観光庁観光資源課は「JNTOが勝手にやったこと」として責任回避をしていますが、JNTOの一担当者が、試験委員に対して、勝手に「国策として80%の合格率を目指したい」などと言えるはずもなく、これは、観光庁からの指示によるものであったことは明白です。

●国策に乗って、合格してください。

今年も合格率が高くなり、大量の合格者が出ることは明らかです。ここは、準備がまだ不十分の方も、国策に乗って、是非、合格してください。千載一遇のチャンスです！

●無料合格を目指してください。

＜動画学習コーナー＞＜無料音声学習コーナー＞とハローの無料サービスで、らくらく合格することが可能ですから、2014年度＜合格体験記＞を参考にして、是非、無料合格を目指してください！

・動画学習コーナー(6科目、79講義、158時間の動画を無料公開!)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/aa9caa987007e8ef9f390a0a88c6e667>

・音声学習コーナー(9科目、100講義、200時間の音声を無料公開!)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/89f4804d90b83a179d69e92565f0a210>

・2014年度＜合格体験記＞(先人の合格体験に学べ!)

<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/c/a8ad7ef5199efb807f9c59c5e4424891>

# 通訳案内士 採点甘く?

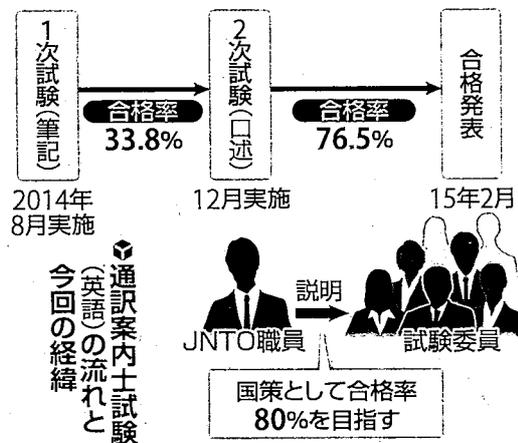
## 担当職員「国策で合格率増」

外国人観光客向け有料ガイド通訳案内士(通)の昨年度の口述試験前に、試験事務を担う日本政府観光局(JNTO)の担当者が、採点役の試験委員に対し、「国策として80%の合格率を目指す」と発言していたことが、関係者への取材でわかった。採点は受験者の絶対評価が原則。「発言が採点に影響した」とする試験委員もあり、専門家は「合格基準に達しないガイドを生みかねない」と発言を問題視している。

### 試験委員「発言、影響した」

複数の関係者によると、問題の発言があったのは、昨年12月7日に行われた英語の口述試験の直前。全国3か所の試験会場のうち東京都内の会場で、JNTOの担当者が70人以上の試験委員に注意事項を説明した後、「東京五輪も控えており、国策として80%の合格率を目指す。将来性も加味して採点してほしい」などと話したという。

試験は筆記(1次)と口述(2次)に分かれ、口述試験は日本人と外国人の試



## 外国人客 1300万人ガイド不足

今回の「発言」の背景には、日本が官民挙げて観光立国を目指していることがある。

訪日外国人数は昨年初めて年間1300万人を突破。政府は、東京五輪・パ

複数の関係者によると、試験委員がペアを組んで担当。受験者の発音や語彙力、コミュニケーション力などを評価して採点する。基準点(原則6割)に達すれば、合格だという。

今回の「発言」の背景には、日本が官民挙げて観光立国を目指していることがある。

訪日外国人数は昨年初めて年間1300万人を突破。政府は、東京五輪・パ

これに対し、通訳案内士の有資格者は2万人弱。観光庁観光資源課は「多様化する外国人観光客のニーズに応えるには、通訳案内士の数の増加と質の向上は喫緊の課題だ」と指摘する。

出願者を増やすため、観光庁は昨年度から、英語力

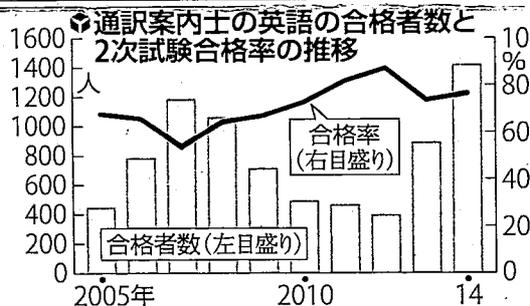
ある試験委員は取材に対し、JNTO担当者の発言を認め、「合格者を増やしたいのだからと思った。正直、採点に影響した」と証言。別の委員も「おかしかった」と思った。(可否の)ボー

定の実力が認められた者について、英語の筆記試験を免除している。この免除枠を利用して2243人が出願するなど、出願者数の45%アップにつながったという。

一方、筆記試験の問題の中に、「国連予算の日本の分担割合」「日本の農家1戸あたりの平均耕地面積」を問うなど、観光ガイドに必要なとは思われない設問があり、業界団体などから

JNTOは担当者の発言について、「例年の合格率が80%前後で推移していることを踏まえたもの」としたが、「急増する外国人観光客への対応として、通訳案内士の絶対数を増やしていく必要がある」との趣旨だった」と説明。

試験を所管する観光庁観光資源課は、「合格者を増やしたいとの考えはあるが、(JNTO側が)試



鈴木勝・共栄大客員教授(観光学)の話「この発言によって実力が伴わないガイドが誕生しかねず、結果的には日本の観光にとってマイナスになる」

試験委員に具体的な合格率を示したとすれば遺憾。試験事務が円滑に運営されるよう監督したい」としている。

【1】第1次筆記試験<主な変更点と合格必勝対策>

<出題方式>の変更

英語はすべてマークシート方式により実施されます。

・外国語

<英語> → マークシート方式

<中国語、韓国語> → 記述式とマークシート方式の併用

<上記以外の外国語> → 記述式

・邦文試験<日本地理、日本歴史、一般常識> → すべてマークシート方式

<合格基準、配点の変更>

【外国語】(合格基準:70点)

問題の種類	配点	<合格必勝対策>
・外国語長文の読解2題	35点→25点	教本Aと教本B
・外国語文の和訳1題	15点→15点	教本Aと教本B
・和文の外国語訳1題	15点→30点	「300選」の暗記
・あるテーマ、用語の外国語による説明1題	20点→30点	「300選」の暗記
・単語を訳す問題1題	15点→削除	

【日本地理、日本歴史】(合格基準:70点)

日本の観光地等に関連する主な日本地理・日本歴史の事柄のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う。内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする。世界遺産の写真を見せるなどして、ガイド業務に必要な知識を問う。

<合格必勝対策>

マラソンセミナーの日本地理、日本歴史プラス下記の推薦参考書

【一般常識】(合格基準:60点)

最新の「観光白書」や新聞に掲載された時事問題をベースに出題し、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う

<合格必勝対策>

マラソンセミナーの一般常識プラス下記の推薦参考書。「難しすぎる問題がある」との指摘があった一般常識は観光白書や時事問題をベースとする。

【2】合格基準の違いの理由

外国語、日本地理、日本歴史の合格基準が70点なのに、一般常識のみが何故60点なのか。これまで、第1次試験4科目について、出題者は平均点が60点になるように作成してきたが、通常、一般常識の平均点は、他の科目と比べて5点~10点低かったようだ。

通訳案内士試験の問題には、難問、奇問が多いとの批判が、かねてからあり、今後、難問、奇問を出題しないようになったようであるが、一般常識は、依然として、他の科目と比べて、平均点が低くなるだろうとの観測から、合格基準を他の科目より10点低く設定したものと考えられる。

# 「通訳案内士試験ガイドライン」の見直しについて(案)

今後の出題方針として、語学科目については、外国人旅行者と適切に意思疎通が図れる水準を求めめる一方、その他の科目については、外国人旅行者の関心の高い事柄等に関する基礎的な知識を問う内容・形式とする。

## 現 行

### 第1次試験 (筆記)

#### 【外国語】

- ・ 外国語→日本語訳する力を重視した配点  
外国語長文の読解 (35点) 外国語文の和訳 (15点)  
和文の外国語訳 (15点) 外国語による単語説明 (20点)  
単に外国語・日本語の同じ意味の単語を選ぶもの (15点)

#### 【日本地理、日本歴史】

- ・ 日本地理、日本歴史について主な事柄 (日本と世界の関わりを含む。)のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての知識を問う
- ・ 内容は、中学校及び高校の教科書並びに地図帳をベースとし、地図や写真を使った問題を3割程度出題

#### 【一般常識】

- ・ 高校の現代社会の教科書をベースに、新聞 (一般紙)に掲載された最近の時事問題や、最新の「観光白書」に掲載されている観光をめぐる動向を加味したもの

#### 【問題作成・合格基準】

- ・ 平均点が60点程度となるような出題に努める
- ・ 合格基準は、これを前提に、概ね60点 (語学70点)

- ・ 試験時間は8分程度とする。

### 第2次試験 (口述)

## 改定後

#### 【外国語】

- ・ 日本語→外国語訳する力を重視した配点  
外国語長文の読解 (25点) 外国語文の和訳 (15点)  
和文の外国語訳 (30点) 外国語による単語説明 (30点)  
単に外国語・日本語の同じ意味の単語を選ぶもの (削除)

#### 【日本地理、日本歴史】

- ・ 日本の観光地等に関連する主な日本地理・日本歴史の事柄のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う
- ・ 内容は、地図や写真を使った問題を中心としたものとする

#### 【一般常識】

- ・ 最新の「観光白書」や新聞に掲載された時事問題をベースに出題し、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問う

#### 【問題作成・合格基準】

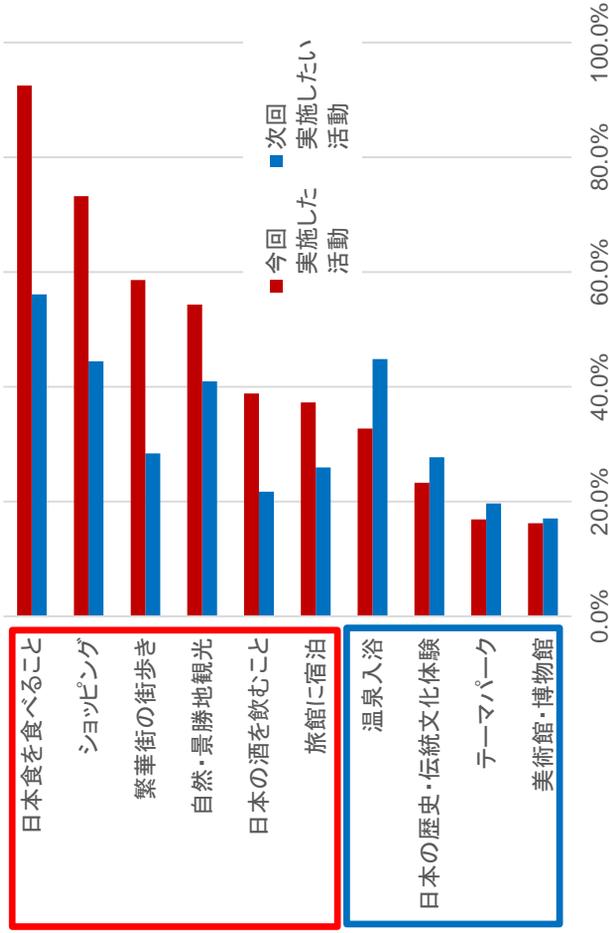
- ・ 必要以上の難問・奇問の作成を避けるため、【削除】
- ・ 合格基準は、あらかじめ示す基準点を満たせば一律合格

- ・ 試験時間は10分程度とする。

- 訪日外国人旅行者の関心事項や不満等を見ると、我が国に対し、ショッピングから歴史・文化と、より理解が難しいことに関心が移る傾向にある一方、日本人の語学力や標識、観光案内所等に対する不満が大きい。
- これらに適切に対応するためには、一定の語学力と日本の観光事情に関する知識を有する通訳案内士の役割がますます重要。

## 訪日外国人の関心事項

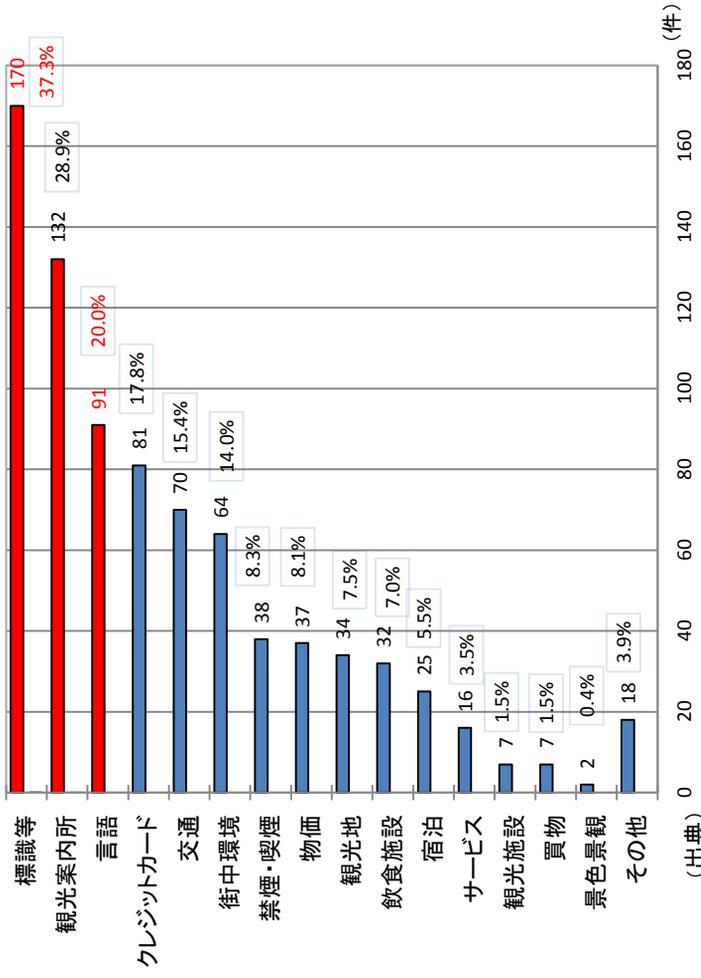
今回・次回の訪問時への関心事項が異なっているため、多様なニーズへの対応が今後は一層求められる



(出典) 平成26年訪日外国人消費動向調査 (観光庁)

## 訪日外国人の不満等

訪日外国人旅行者が旅行中に感じた不便・不満 (外国人旅行者に対するアンケート調査結果 回答者456名・複数回答可)



(出典) 日本政府観光局「訪日外国人個人旅行者が日本旅行中に感じた不便・不満調査」報告書(平成21年10月)に基づき観光庁作成。

- 都道府県の試験合格により資格を付与する**地域限定通訳案内士制度**を、平成18年度より導入。
- 更なる制度改正として、地方公共団体が独自に行う研修の修了により資格を付与する**特例ガイド制度**を、平成24年度より導入して以降、他の地域振興法等にも対象を順次拡大。

		特例ガイド					
		総合特区法	福島復興再生特措法	沖縄振興特措法	奄美群島振興開発特措法	小笠原諸島振興開発特措法	中心市街地活性化法
<b>地域限定通訳案内士</b> (外国人観光旅客の旅行の容易化等の促進による国際観光の振興に関する法律)		<b>地方公共団体の研修</b>					
<b>取得条件</b>	<b>都道府県の試験</b>						
<b>施行日</b>	平成18年 4月1日	平成24年 4月1日	平成24年 5月31日	平成24年 4月1日	平成26年 4月1日	平成26年 4月1日	平成26年 7月3日
<b>計画</b> (策定主体)	外客来訪促進計画 (都道府県)	総合特別区域計画 (地方公共団体)	産業復興再生計画 (福島県)	沖縄特例通訳案内士育成等事業計画 (沖縄県)	産業振興促進計画 (鹿児島県)	産業振興促進計画 (小笠原村)	中心市街地活性化基本計画 (市町村)
<b>活動範囲</b>	資格を得た 都道府県区域	<b>計画区域</b>					
<b>言語</b>	地域の需要に応じた言語	地域の需要に応じた言語					
<b>登録者数</b>	379名(6道県)  ※現在は沖縄県のみが実施	633名 (平成27年4月1日現在)		199名	84名	350名 (5地域)	17

- 現行法上、総合特区や地域特措法の対象地域等以外では、特例ガイドを導入することができない。
- 地域によっては、特例ガイドを地域観光振興策として十分活用せず、成果が不十分な場合あり。

## 森林資源を活用した自然体験型観光に関する専門ガイド

実施主体：益田地区広域市町村圏事務組合  
 区域：益田市、津和野町、吉賀町の全域  
 言語：英語、77言語、中国語、韓国語  
 登録者数：17人（平成25年12月～）

## 九州周遊観光の専門ガイド

実施主体：九州観光推進機構  
 区域：九州の全域  
 言語：中国語、韓国語、タイ語  
 登録者数：125人（平成26年3月～）

## 世界遺産エリア（熊野古道、高野山）の専門ガイド

実施主体：和歌山県  
 区域：田辺市、新宮市、かつらぎ町、九度山町、高野町、白浜町、すさみ町、那智勝浦町の全域  
 言語：英語  
 登録者数：81名（平成25年4月～）

## 関空からの入国者を対象とした地域観光の専門ガイド

実施主体：大阪府・泉佐野市  
 区域：泉佐野市の全域  
 言語：英語、中国語、韓国語  
 登録者数：38人（平成25年4月～）

## ロケ地観光の専門ガイド

実施主体：札幌市  
 区域：札幌市の全域  
 言語：英語、中国語、韓国語、7言語、タイ語、ヒンディー語  
 登録者数：89名（平成25年9月～）

## 放射性物質等の知識を有した地域観光の専門ガイド

実施主体：福島県  
 区域：福島県の全域  
 言語：英語、中国語、韓国語  
 登録者数：84人（平成26年4月～）

## クルーズ客に対する地域観光の専門ガイド

実施主体：沖縄県  
 区域：沖縄県の全域  
 言語：英語、中国語、韓国語  
 登録者数：199名（平成25年11月～）

## 古い町並み等の中心市街地を回遊する専門ガイド

実施主体：高山市  
 区域：高山市の中心市街地  
 言語：英語  
 登録者数：未登録（平成27年度より研修開始）

## 奈良公園の専門ガイド

実施主体：奈良県  
 区域：奈良公園  
 言語：中国語、韓国語  
 登録者数：未登録（平成26年度より研修開始）

合計：633名  
 （平成27年4月1日現在）

---

## 推薦参考書

---

凡例:★の数が多いほど推薦できる。

- 「地図とデータでよくわかる「日本地理」(★★★)(地理対策)  
(JTBパブリッシング)(1300円)(2013年12月1日)(143ページ)  
地図、図版、文章で、いまさら聞けない「？」を徹底解説。
  
- 「旅に出たくなる地図(日本)」(★★★)(地理対策)  
(帝国書院)(2400円)(2014年3月10日)(251ページ)  
世界遺産に登録された「富士山」「小笠原諸島」や、話題の「豪華列車の旅」「東京スカイツリー」など、新たに特集頁を掲載して、8頁増! 美しい地図とダイナミックな鳥瞰図が満載で、いつかは行ってみたい観光名所へ、自宅にいながら旅行気分が味わえる! これからの旅行のプランニングや、これまでに行った旅先の振り返りにも最適!
  
- 「旅地図(日本)」(★★★)(地理対策)  
(昭文社)(2000円)(2015年5月1日)(208ページ)  
日本全国の人気、定番エリアをくまなく収録。旅ネタ満載。ビジュアルマップ。写真+記事+アイコンで見やすい名所・観光スポット1000収録。絶景ギャラリー、世界遺産、国指定文化財、日本の100選(山、名水、城、滝、白砂青松、さくら)、
  
- 「今がわかる、時代がわかる「日本地図」2015年版(★★★)(地理・一般常識対策)  
(成美堂出版)(1600円)(2015年1月10日)(255ページ)  
日本の「今」を詳らかにする「元祖情報地図」。政治、社会、産業経済、交通・情報などの「テーマ」別日本の現状を豊富な図表や写真を使って解説している。
  
- 「ニュースがスラスラわかる「なるほど知図帳2015」(★★★)(地理・一般常識対策)  
(昭文社)(1600円)(2015年)(251ページ)  
特集①:2015年の展望:日本はこうなる! 政治・経済・外交・インフラなど日本のこれからの徹底分析。特集②世界に誇れる! ニッポンの最先端技術。  
ニュースで気になる話題を押さえた圧巻の67テーマ!!
  
- 「完全制覇国内旅行地理検定試験」(★★)(地理対策)  
(一ツ橋書店)(1500円)(2015年4月27日)(247ページ)  
旅行業務取扱管理者試験に対応。①データ編、地域別問題で標準知識をゲット。②温泉、自然景観地を全国地図で位置確認。③四択問題で解答力アップ。④反復設問で弱点補強。
  
- 一発合格! 「旅行業務取扱管理者試験①観光地理テキスト」(★★)(地理対策)  
(大原出版)(1500円)(2014年12月15日)(336ページ)  
初めて学ぶ方でもよくわかる「旅行管理者試験の基礎知識」を掲載。頻出問題を厳選。

- 一発合格！「旅行業務取扱管理者試験①観光地理トレーニング問題集」(★★)(地理対策)  
(大原出版)(1000円)(2014年12月15日)(176ページ)  
「総合」「国内」試験の「旅行実務」科目の「観光地理」に対応。重要度ランク付き、だから、スムーズに実力アップ。
- 「日本の世界遺産」(★★★)(地理・一般常識対策)  
(JTBパブリッシング)(1200円)(2012年発行)(141ページ)  
写真と説明が充実している。2012年発行なので、富士山と富岡製糸場と絹産業遺産群が掲載されていない。
- 「日本の世界遺産めぐり」(★★)(地理・一般常識対策)  
(昭文社)(1000円)(2015年発行)(79ページ)  
写真と地図と説明が充実している。
- アドバンス「中学歴史資料」(★★★)(歴史対策)  
(帝国書院)(2015年2月25日)(233ページ)  
歴史が苦手な方の入門書として最適。難しい漢字には、すべてひらがながふってある。
- 地図とデータでよくわかる「日本史」(★★★)(歴史対策)  
(JTBパブリッシング)(1300円)(2013年7月1日)(143ページ)  
高い理解度。データ満載の地図。魅力の人物伝。明治維新とは武士の大規模リストラだった？織田信長のイノベーション戦略とは？人は城、人は石垣、人は堀。
- 「地図で訪れる歴史の舞台」(★★)(歴史対策)  
(帝国書院)(2000円)(2013年7月10日)(226ページ)  
「ここで歴史が動いた！」をテーマに、日本各地の歴史の舞台を解説したユニークな本である。文字だけではつかむことができない史実を写真と地図で分かりやすく説明してある。但し、本書は歴史書ではないので、歴史の流れを学ぶことはできない。
- 山川ビジュアル版「日本史図録」(★★)(歴史対策)  
(山川出版社)(840円)(2014年12月25日)(280ページ)  
定番の参考書。
- 詳説「日本史図録」(★★)(歴史対策)  
(山川出版社)(860円)(2015年1月25日)(360ページ)
- 「新詳日本史」(★★)(歴史対策)  
(浜島書店)(857円)(2015年2月4日)(361ページ)
- 「プロムナード日本史」(★★★)(歴史対策)  
(浜島書店)(819円)(2015年2月4日)(241ページ)  
勉強しやすい。
- 観光白書(平成26年版)(★★★)(一般常識対策)  
(平成27年版は、7月20日発行予定なので、平成26年版を利用すればよい)

- 「16年版 最新最強の一般常識」(★★★)(一般常識対策)  
 (成美堂出版) (1200円) (2014年6月20日発行) (207ページ)  
 2014年度の一般常識で、4題の類似問題が本書より出題されている。  
 時事問題は、「政治」「国際情勢」「経済」「産業」「金融」「科学・技術」「自然・環境」「社会・生活」  
 「教育・文化」「スポーツ・芸能」の10分野に、一般常識問題は、「国語・社会」「数学・物理化学」  
 「英語」の3分野に分けられている。
  
- 「16年版 最新最強の一般常識 一問一答」(★★)(一般常識対策)  
 (成美堂出版) (1200円) (2014年6月20日発行) (239ページ)  
 「政治」「国際」「社会」「地理・歴史」「文化・スポーツ」の各ジャンルを網羅。一問一答形式で知識の整理ができる。
  
- 「一般常識&最新時事」(★★★)(一般常識対策)  
 (新星出版社) (1200円) (2014年12月5日発行) (207ページ)  
 重要最新時事問題を網羅。絶対におさえておきたい一般常識を厳選。[別冊]業界別重要キーワード付き。通訳案内士試験の一般常識の問題と似た問題が満載。
  
- 就活生1000人に聞いた「一般常識&最新時事」(★★★)(一般常識対策)  
 (新星出版社) (1200円) (2014年12月5日発行) (207ページ)  
 時事問題の「今」がわかる。一般常識の知識の整理に最適。
  
- 「一般常識&時事 一問一答」(★★)(一般常識対策)  
 (高橋書店) (1000円) (2014年7月25日発行) (159ページ)  
 別冊「イッキに！最新時事&業界別キーワード」。一般常識の知識の整理に最適。
  
- 「最新時事用語&問題」(★★★)(一般常識対策)  
 (新聞ダイジェスト社) (1300円) (2015年2月12日発行) (223ページ)  
 知っておきたい話題や基本の135用語を網羅。この1冊で、小論文、就職、資格対策も完璧。
  
- 「一般常識&時事問題」(★★)(一般常識対策)  
 (新聞ダイジェスト社) (1000円) (2014年12月15日発行) (223ページ)  
 巻頭特集：最新時事問題模擬テスト。一般常識の知識の整理に最適。
  
- 「時事キーワード」(★★)(一般常識対策)  
 (新聞ダイジェスト社) (1000円) (2014年12月16日発行) (225ページ)  
 この1年間に聞いた時事用語をやさしく解説。最頻出「重要ワード」28。  
 一般常識の知識の整理に最適。
  
- 今がわかる「最新時事用語2016」(★★)(一般常識対策)  
 (成美堂出版) (1000円) (2014年12月20日発行) (143ページ)  
 これだけは知っておきたい「最重要キーワード」を網羅。7ジャンル 118のキーワードをビジュアル図解。一般常識の知識の整理に最適。
  
- 図解まるわかり「時事用語」(★★)(一般常識対策)  
 (新星出版社) (1200円) (2015年1月5日発行) (143ページ)  
 絶対おさえておきたい最重要時事を完全図解。目で見えてわかるニュースの大疑問。

---

## 2014年度第2次口述試験の実際

---

### 【1】試験委員

外国人と日本人の二名の試験委員により試験が実施された。

【2】試験時間:8分(入室、退出時間に各1分、合計一人10分単位で交代する)

### 【3】試験の実施要領

(1)最初に氏名と受験番号が聞かれる

(2)日本語→外国語の逐次通訳

- ①短い日本文が一度だけ読み上げられる。
- ②その際、用意された筆記用具を使ってメモを取ることができる。
- ③1分以内に外国語で通訳する。

(3)プレゼンテーション

- ①プレゼンテーションのテーマが一つ記載された3枚のカードが渡される。
- ②30秒以内に、どのテーマでプレゼンテーションを行うか決めて、話す準備をする。
- ③その際、用意された筆記用具を使ってメモを取ることができる。
- ④2分間のプレゼンテーションを行う。
- ⑤1分経過したところで、試験官から合図がある。
- ⑥プレゼンテーション終了後、試験官との質疑応答がある。

### 【4】試験室



- (1)家族、恋人、ペットの写真に代え、上記写真を携帯、スマホの待受画面に設定し、「**常在戦場**」の意識を高めておくことが重要である。
- (2)武術に女性や家庭は百害あって一理なしと孤高に生き抜いた宮本武蔵は、生涯独身を通し、「**剣聖**」となった。武蔵がスマホを持っていたら、佐々木小次郎との決闘の前に、お通ではなく、巖流島の写真を待受画面にしていたらことは容易に想像できる。
- (3)試験会場(昭和女子大)では、試験室の中のやり取りが、ドアから洩れ出て、よく聞こえる場合がある。普段から、周りの人のささやきなどに聞き耳を立てて、聴く練習をしておくことが大切である。



## 通訳ガイド年表

年	通訳ガイド史	JTＢの100年の歴史
1879(明治12)	日本で最初に組織されたガイド団体である「開誘社」設立。	
1893(明治26)	「喜賓会」設立。	
1897(明治30)	「東洋通弁協会」設立。	
1903(明治36)	「内務省より案内業者取締に関し標準を定め関係地方長官に通牒せり」 「帝国通弁協会」設立。	
1906(明治39)	「開誘社」と「東洋通弁協会」が合併して、後の「(横浜通訳)協志会」となったようだ。	
1907(明治40)	内務省令第21号案内業者取締規則	
1910(明治43)	「案内業者ニ関スル件(内務省通牒3444号)」が内務大臣へ提出。 ガイドになるには、試験を受け、免許を取得することが、初めて中央法令で定められた。試験科目:外国語、本邦地理、本邦歴史。合格率は一割位。	
1911(明治44)	この年より1915年まで「(横浜通訳)協志会」が唯一のガイド団体となる。	
1912(明治45)		鉄道院運輸局長、木下淑夫の尽力により、「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」設立。設立当初は、半官半民の組織だったと考えられる。
1914(大正3)	「喜賓会」解散	
1915(大正4)	「全日本外資通訳業連合組合」設立。	
1921(大正10)	警視庁訓令第56号案内業者試験規程制定。第16条では無免許の営業については「二十五円以下ノ罰金」又は「二十五日以下ノ重禁固」に処することになっているが、無免許ガイドの存在は認められながらも、彼等が処罰された様子は一切ない。	
1919(大正9)	東京乗合バス(青バス)営業開始。	
1925(大正14)	東京乗合バス(はとバスの前身)が(東京)市内遊覧バスの運行開始。	
1927(昭和2)		「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」が社団法人になる。
1929(昭和5)	鉄道省外局として「国際観光局」設置。	

1930(昭和5)	日本ホテル協会理事長から国際観光局長へ事業改善に関する請願「ガイドノ取締及素質向上ニ関スル件」。 この頃、「神奈川県外賓案内業組合」と「日本通訳協会」の2団体の存在が確認されている。	
1938(昭和13)	この頃、「神奈川県外賓案内業組合」(31名)と「日本通訳協会」(29名)と「神戸国際観光通訳協」(13名)の3団体の存在が確認されている。	
1939(昭和14)	「日本観光通訳協会(JGA)」設立。約100名のガイドが参加。 役員には、内務省、警視庁、憲兵司令部、外務省、大蔵省、国際観光局、日本旅行協会、日本ホテル協会、旅行会社、汽船会社などの関係者が名を連ねた。外国人と外国人と接するガイドを当局の監視下におくことが目的で、当時、特高警察の刑事が、ときどきガイドを訪れて、思想調査をしていた。	
1940(昭和15)	「日本観光通訳協会(JGA)」が社団法人になる。	
1941(昭和16)	太平洋戦争に突入。	社団法人「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」が社団法人「東亜旅行社」になる。
1942(昭和17)		社団法人「東亜旅行社」が財団法人「東亜旅行社」になる。
1943(昭和18)		(財)「東亜旅行社」が(財)「東亜交通公社」に改称。
1945(昭和20)		(財)「東亜交通公社」が、(財)「日本交通公社」に改称。
1948(昭和23)	GHQが外人観光客の入国を1週間の滞在制限付観光旅行許可第1陣24名来日。 JGA総会開催。運輸省観光課と共同主催によるガイド講習会開催。	
1949(昭和24)	運輸省発足。日本国有鉄道発足。 通訳案内業法公布施行。 第1回通訳案内業試験実施。	
1955(昭和30)		(財)日本交通公社が、外客向けパッケージツアー(日光)を初めて催行。
1960(昭和35)		(財)日本交通公社が、ガイド専属制度開始。77名。
1961(昭和36)	ガイド研修会を日本観光通訳協会、東京都、神奈川県が共催。	
1962(昭和37)	日本観光通訳協会が、労働省の許可を受け、ガイドの無料紹介業務を開始。	

1963(昭和38)		(財)日本交通公社は、旅行部門を株式会社日本交通公社として独立させた。 (株)日本交通公社が、定期観光についてはとバスと提携。現在も都内定期観光はほとバスが担当。
1964(昭和39)	オリンピック開催のために、臨時通訳案内業試験を実施するとともに通常試験を早期に実施。	(株)日本交通公社が、サンライズツアーの運行開始。
1981(昭和56)	全日本通訳案内業者連盟(JFG)設立、都庁へ届出。	
1982(昭和57)	JFGが運輸省の認可団体になる。	
1984(昭和59)	JNTOが試験事務代行開始。	
1994(平成6)	JNTOが協同組合へ改組。	
2001(平成13)		名称を「株式会社ジェイティービー」と変更。
2004(平成16)	第1次邦文試験(日本地理、日本歴史、一般常識)がマークシート化される。	(株)ジェイティービーが事業持ち株会社化発表。
2006(平成18)	地域限定通訳案内士制度導入。6道県が導入したが、2015年現在、沖縄を除くすべての道県が開店休業状態。	(株)ジェイティービーが、事業持ち株会社化による新体制開始し、マーケット別エリア別に分社化を実施。JTBグローバルマーケティング&トラベル営業開始。
2009(平成21)	通訳案内士の名称独占と業務独占の廃止を目的にした「通訳案内士のあり方に関する検討会」開始。2010年に閣議決定までいくも、内閣法制局に一蹴されて頓挫。	株式会社 ジェイティービー(グループの連結決算)で赤字転落。
2011(平成23)		中国で、中国人向け旅行商品「悠逸」を販売開始 JTBグループが外資系旅行会社として初めての認可を受ける
2012(平成24)	特例ガイド制度(総合特区法、福島復興再生特措法、沖縄特措法、奄美大島振興開発特措法、小笠原振興開発特措法、中心市街地活性化法)導入。	創立100周年。
2013(平成25)	第1次英語筆記試験の50点分がマークシート化される。	
2014(平成26)	通訳案内士の名称独占と業務独占の廃止を目的にした「通訳案内士精度のあり方に関する検討会」開始。	
2015(平成27)	2014年度第2次口述試験会場(東京・昭和女子大)で、JNTO担当者が試験委員に対して「合格率が80%になるように採点せよ」と指示を出していたことが露見して大問題となる。	